

平成29年度 第4回 木曾川水系流域委員会 【良好な自然環境、水辺空間の創出による観光振興への貢献】

平成29年8月22日

国土交通省 中部地方整備局

木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所

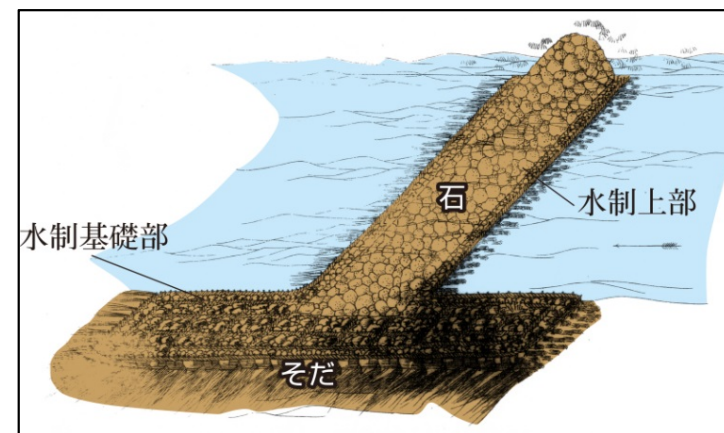
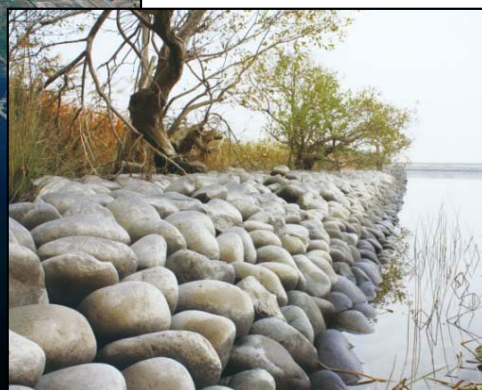
ケレップ水制とは

- ケレップ水制とは、粗朶と石で造られたオランダ式水制であり、明治改修(明治20年～45年)において新たに設けた低水路の固定と流水の衝撃の緩和を目的に設置。
- 設置後100年以上経過する中、改修工事により数は少なくなったものの、木曾川においては現在も61基現存しており、平成12年には、土木学会選奨土木遺産※に指定。

※社団法人土木学会が、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として選奨する賞

ケレップ水制

- ケレップ水制はオランダ人技師のエッセンやドレイケらが我が国に導入したもので、河岸から川の中央に向かって突き出した突堤。
- 大部分が明治30年～32年に設置。



ケレップ水制群に点在するワンドの状況①

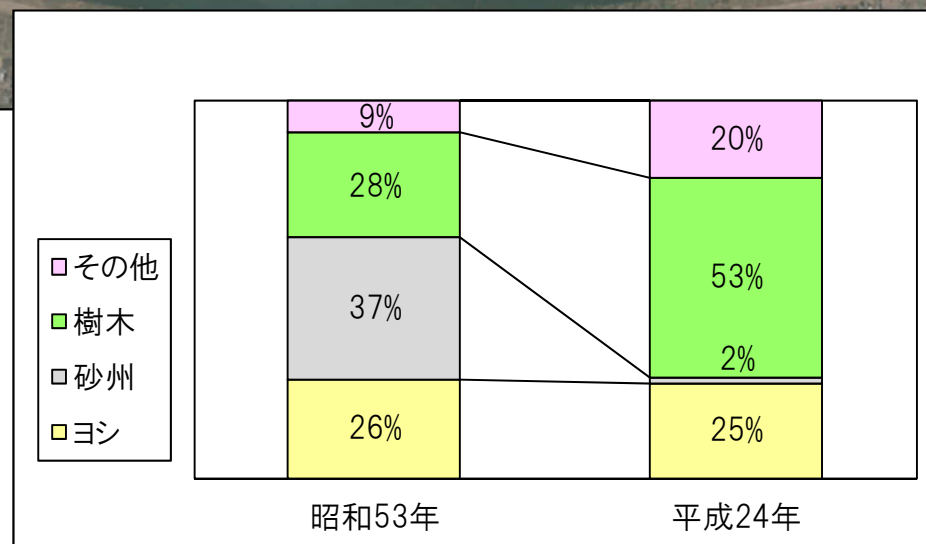
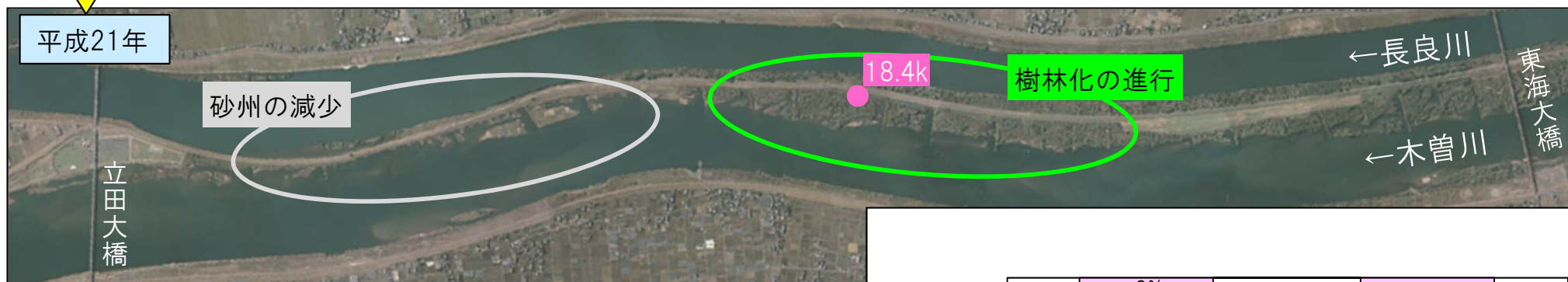
■ケレップ水制群には、良好なワンドが形成されていたが、近年、樹林化の進行によりワンドの湿地環境が悪化するとともに、砂州の減少が見られる。

樹林化の進行



ケレップ水制群に点在するワンドの状況②

樹林化の進行及び砂州の減少

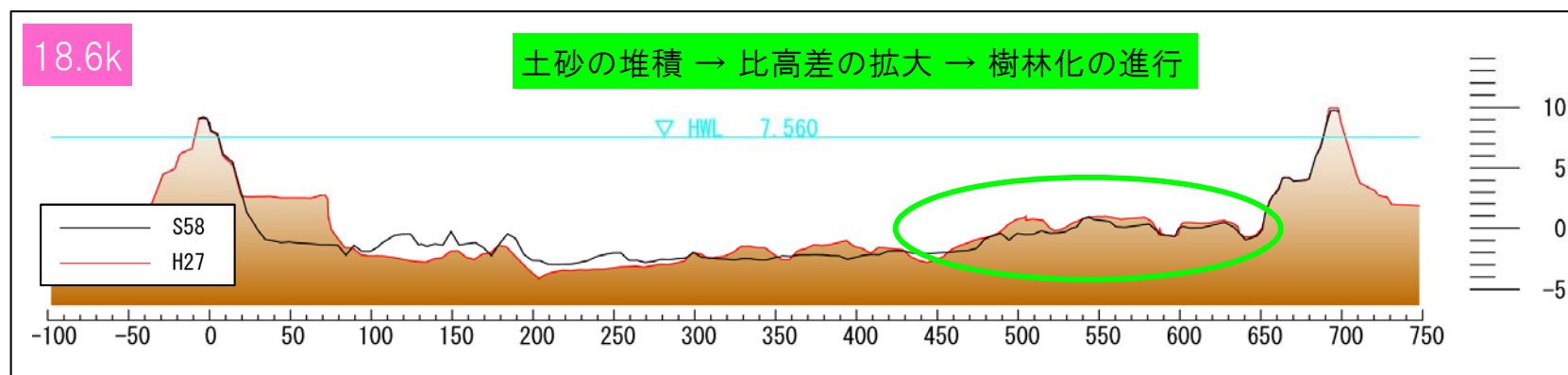
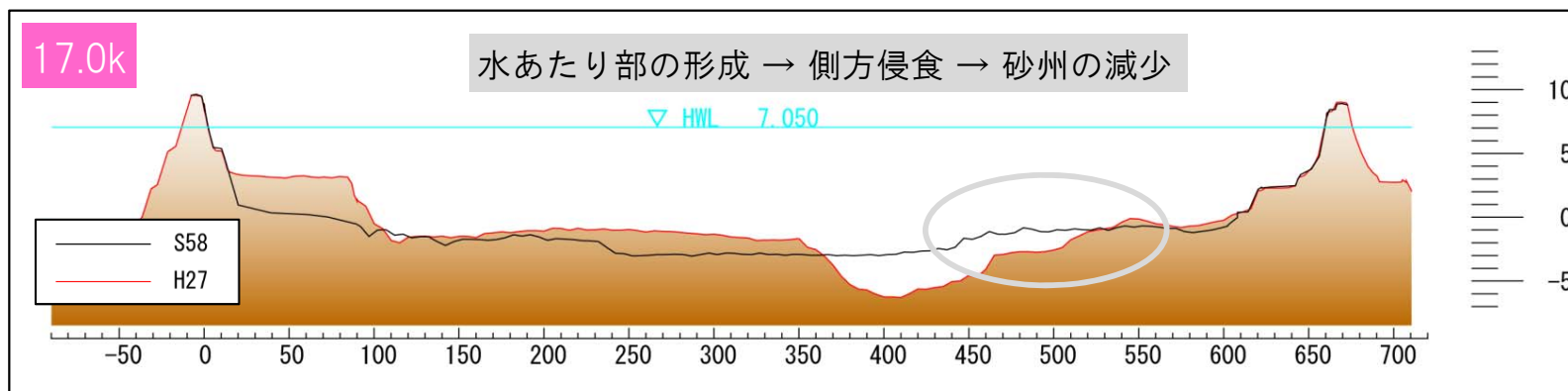
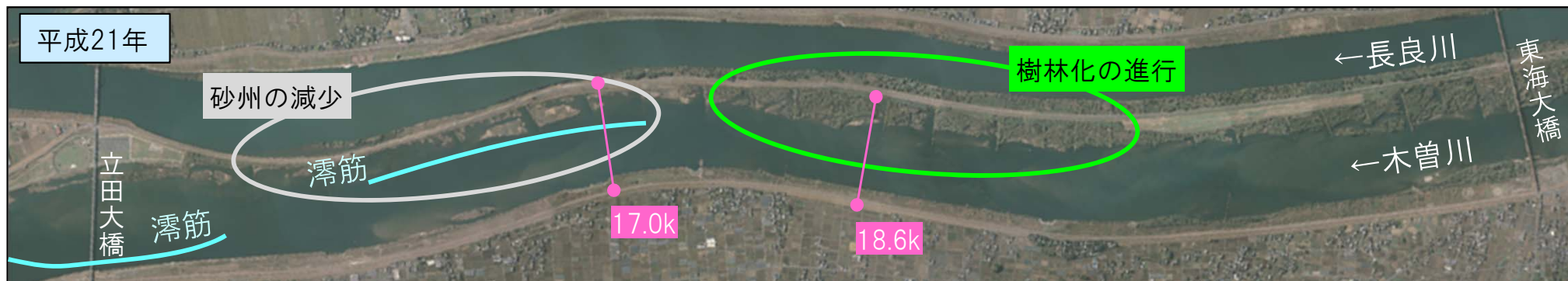


ケレップ水制群の植生等の変遷(木曽川右岸 立田大橋上流)

樹林化の進行、砂州の減少要因

■ 樹林化の進行要因としては、比高差の拡大が挙げられ、砂州の減少要因としては、水当たり部における側方侵食が挙げられる。

主な要因



現行河川整備計画における記載及び自然再生の今後の可能性

■このような中、現行の河川整備計画において、ケレップ水制群に点在するワンドの保全・再生について位置付けている。

現行河川整備計画における記載

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 第3項 河川環境の整備と保全に関する事項

1 河川環境の整備と保全(抜粋)

下流域では、**ケレップ水制群に点在する良好なワンド**、カヤネズミ等が生息・繁殖するヨシ原、ヤマトシジミ等が生息・繁殖する干潟などを**保全しつつ、樹林化の進行により悪化したワンドの湿地環境**や、ヨシ原、干潟の**再生に努める**。

■しかしながら、良好な自然環境や魅力ある水辺空間を創出するだけでなく、創出したオープンスペースを活かすことで、観光振興や地域活性化にも貢献していける可能性がある。

観光振興や地域活性化への貢献（イメージ）

インフラツーリズム

- インフラツーリズムとは、既存のインフラ(ダム、トンネル、公園等)や工事中の現場を観光資源とするもの。



エコツーリズム

- エコツーリズムとは、自然を観光資源として、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ、その知識を有する者から案内等を受けるもの。



出典：環境省ホームページ

ケレップ水制群周辺の歴史的土木構造物

■ケレップ水制群周辺には、数多くの歴史的な土木構造物が現存。

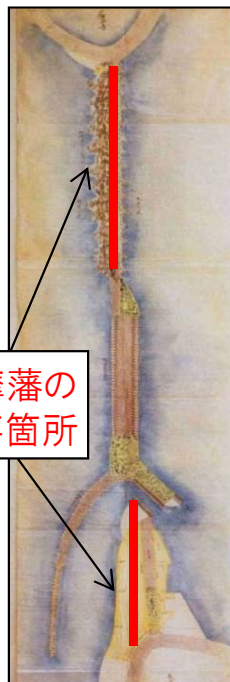
ケレップ水制群周辺に位置する歴史的な土木構造物

油島締切堤（千本松原）

- 宝暦治水※において締切に着手。
- 薩摩藩士が千本の「日向松」の苗を植えたと伝えられている。
- 昭和15年、国の史跡に指定。
※江戸幕府が薩摩藩に命じた御手伝普請(1753年～1754年)



薩摩藩の
工事箇所



明和年間(1764～1771年)の油島喰違堰絵図

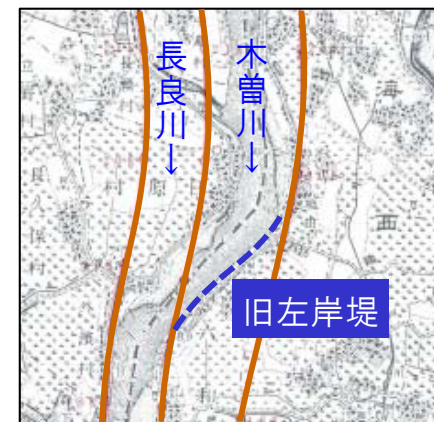
船頭平閘門

- 明治時代に作られた閘門で、現在も活躍する数少ない貴重な土木構造物。
- 平成12年、有形登録文化財に指定。



木曾川の旧左岸堤（幻の堤防）

- 明治改修(明治20年～45年)における三川分離により、新堤防が作られたことから、現在は水没する木曾川の旧左岸堤。
- 干潮時に姿を現す。



歴史的土木構造物の観光資源としての活用

- インフラそのものが地域固有の観光資源として注目される中、全国各地でインフラを対象とした様々なツアーが実施されており、木曾三川においても、船頭平閘門を観光船で見学するインフラツアーが実施されている。
- ケレップ水制群に点在するワンドの保全・再生により、良好な自然環境や魅力ある水辺空間を創出することで、エコツアーとして、観光振興及び環境の保全に関する意識の啓発等の環境教育の推進を図っていくことも可能となる。

インフラリズム・エコリズム

木曾川観光船 ガイド付き

運航期間 2017.3月25日(土)～11月19日(日) [土・日・祝運航]

船頭平閘門で木曾川と長良川の水位の違いを体感!!
愛西市を流れる木曾川を、ボランティアガイドの説明を聞きながら観光船で巡ります。葛木港を出発して愛知の小川ナマ運河「船頭平閘門」(国指定重要文化財)で、川の水面の高さ調節を体感し長良川へ、そして同じルートに戻ります。ゆったりとした木曾川の流れや野鳥のさえずりなど、愛西市の自然を心ゆくまでお楽しみください。



運航案内 完全予約制

運航ルート 葛木港 ← 船頭平閘門 → 小川ナマ運河 → 長良川
船頭平閘門で下船して、木曾川文庫(木曾三川の治水に関する文庫や資料を保管・展示)の見学や公園内の散策が楽しめます。

定員 12名(大人)

所要時間 約3時間 1日1便

料金 ●大人(中学生以上) / 1,000円
●小人(小学生) / 500円 ●幼児/無料
●小学生以下は保護者同伴で乗船してください。
●愛西市観光協会会員は特別割引があります。

出発時刻 午前9時30分
運航日は裏面に記載してありますのでご確認ください。
※10～12名様で申し込みの場合は、臨時便を運航します。
(午後1時 出発・木曜日運航)

運航の中止 天候や川の状況等により中止する場合があります。

予約受付 平成29年3月6日(月)午前9時から
電話にて先着順に受付します。●受付時間は午後4時まで

乗り場(葛木港)への交通案内 ●名古屋自動車道(伊勢線)・長良川インターから約15分
への交通案内


お弁当の予約ができます
— 観光船ご予約の際にお申し込みください —

お弁当の種類 レンコン弁当 1,000円(税別) たい焼き弁当 1,000円(税別)

お申し込み・お問い合わせ | 愛西市観光協会(木曾支部) TEL 0567-55-9993

会員募集中 | 愛西市観光協会 〒486-0943 愛知県愛西市川井町2-7番地 道の駅「立田ふれあいの里」内
TEL 0567-55-9993 営業時間 午前9時～午後5時
<http://www.aisaikankou.jp>

観光船乗り場(葛木港)へのアクセスマップ



運航日 (出発時刻 午前9時30分)

運航日	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
25日(土)	5日(祝)	3日(土)	1日(土)	5日(土)	2日(土)	1日(祝)	3日(祝)
26日(日)	4日(日)	4日(日)	2日(日)	6日(日)	3日(日)	7日(日)	4日(日)
1日(土)	5日(土)	10日(土)	9日(土)	11日(祝)	8日(土)	8日(土)	5日(日)
2日(日)	6日(日)	11日(日)	10日(日)	12日(土)	9日(日)	9日(祝)	11日(土)
8日(土)	7日(日)	17日(土)	15日(土)	13日(日)	10日(土)	14日(土)	12日(日)
9日(日)	13日(土)	18日(日)	16日(日)	14日(日)	11日(土)	15日(日)	13日(日)
15日(土)	14日(日)	24日(日)	22日(日)	20日(日)	18日(日)	21日(土)	19日(日)
16日(日)	20日(土)	25日(日)	22日(土)	20日(土)	23日(祝)	22日(土)	
22日(土)	21日(日)		23日(日)	27日(日)	24日(日)	28日(日)	
23日(日)	27日(土)		29日(土)		30日(土)	29日(日)	
29日(日)			28日(日)				
30日(日)							

●出発時刻の10分前までに集合してください。 ●乗船料は当日頂きます。つり銭の無いようお願いします。
●船内での飲食はできませんが、飲酒はできません。
●葛木港にはトイレがありません。道の駅「立田ふれあいの里」等で済ませてから乗船してください。
●景色が悪くなった場合は、早めに愛西市観光協会(電話 0567-55-9993)までご連絡ください。



船頭平閘門を通過する木曾川観光船



ケレップ水制群のエコツアー(イメージ)

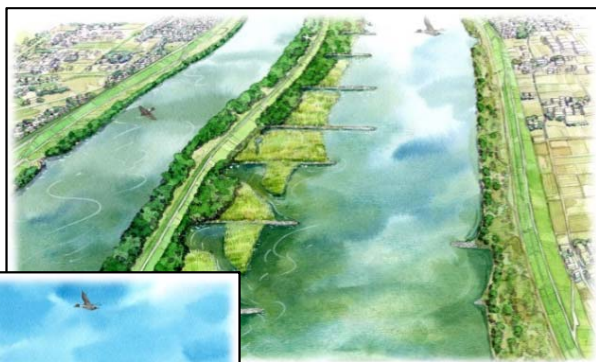
観光振興・地域活性化への貢献①

■歴史的な土木構造物を有するこの地域において、自然環境の保全・再生とともに、地域と一体となってまちと水辺が融合した良好な空間形成を図っていくことで、観光振興や地域活性化に貢献していく必要がある。

良好な自然環境、魅力ある水辺空間の創出による観光振興・地域活性化への貢献

良好な自然環境の創出

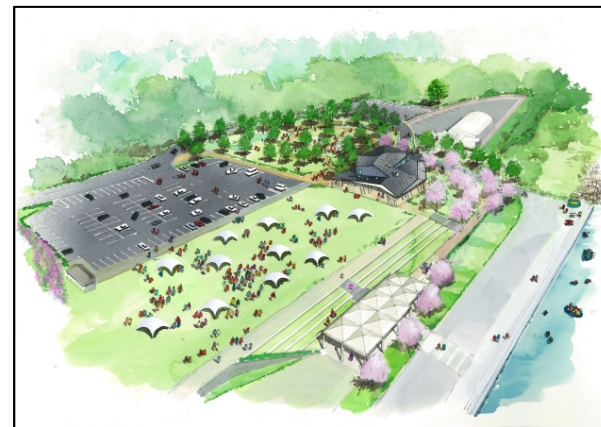
- ケレップ水制群に点在するワンドの保全・再生を図ることで、良好な自然環境を創出する。
- なお、保全・再生したワンドの将来に向けた持続性を高めていくため、川と地域社会の関わりについて深めていく取り組みを進めていく。



ケレップ水制群の
保全・再生イメージ

魅力ある水辺空間の創出（かわまちづくり支援制度）

- 地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、実現性の高い水辺の整備・利用に係る取組みに対し、河川管理者が支援するもの。
- 河川管理者は、ソフト施策のほか、まちづくりと一体となった治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備について支援可能。



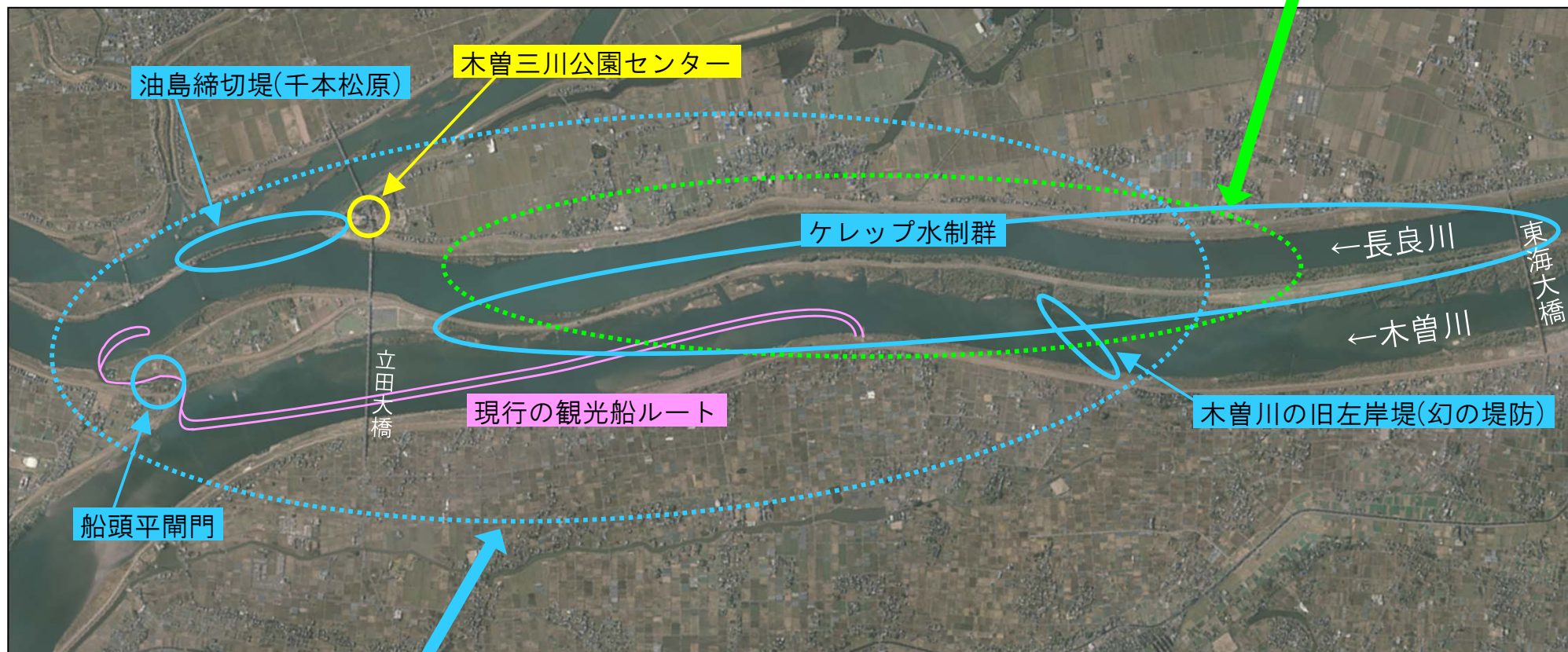
美濃加茂市で実施中のかわまちづくりイメージパース

インフラツーリズム、エコツーリズムなどを通じ、観光振興・地域活性化に貢献

観光振興・地域活性化への貢献②

ケレップ水制群周辺における観光振興・地域活性化への貢献（イメージ）

ワンドの保全・再生+かわまちづくり
↓
「エコツーリズム」ゾーンに
↓
観光振興・地域活性化



かわまちづくり
↓
「インフラツーリズム」ゾーンに
↓
観光振興・地域活性化

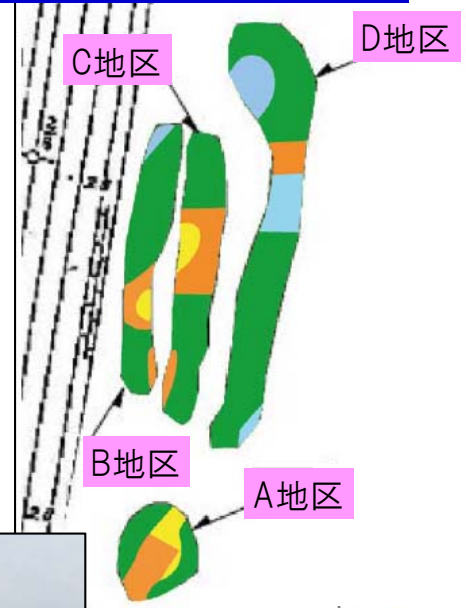
自然環境の将来に向けた持続性の向上

- 創出した良好な自然環境や魅力ある水辺空間については、その状態を持続していく必要がある。
- しかしながら、自然環境には不確実性があり、必ずしも想定したとおりの結果とはならず、従前より実施してきたヨシ原の再生箇所においても、生息場として機能しつつあると考えられるものの、比高差の拡大等により、樹木等の進入が見られる事例も見受けられる。
- そのような中、定期的なモニタリングを実施しているところであるが、モニタリングにより得られた結果を活かしていくことが重要であるとともに、河川管理者のみならず、多様な分野の学識者や市民団体等と連携を図りつつ、川と地域社会の関わりについて深めていく取り組みを進めることで、自然環境の将来に向けた持続性を高めていく必要がある。

再生したヨシ原の状況（長良川右岸6.0k付近）



再生2年目（平成16年度）



再生14年目（平成28年度）

